

沖縄県で初EPA（経済連携協定）

フィリピン人看護師誕生

2014年2月に実施された第103回看護師国家試験に今年も全国で29名の

EPA外国人が合格、当院からはフィリピン看護師候補者1名が合格しました。

合格したブリラン ジアン カルト トルトゥゴさんより、

『感謝しています。3年間一生懸命頑張ってきました。

新垣病院の理事長先生をはじめ職員の皆様に感謝しています。

これからも新垣病院で働きたいです。』と思いを語ってくれました。



※祝賀会にて感激のスピーチ



※祝賀会において記念撮影

比から3年看護師合格

ブリランさん 沖縄研修で初

【沖縄】沖縄市安慶田の新垣病院で勤務・研修するフィリピン人のジャン・カルト・トルトゥゴ・ブリランさん(30)が25日、看護師の国家試験に合格した。ブリランさんは経済連携協定(EPA)に基づく看護師候補者で、県内からの合格は初めて。言葉の壁を越えて結果をつかみ、同病院は喜びに沸いている。

言葉の関門突破

EPAによりフィリピン 内では同院は、厚生労働省の発表にまとも、この看護師候補者を受け入れ、就業は全国で候補者の0.00人が研修させているのは、県 受験し、29人が合格した。

インターネットで合格を 確認したブリランさんは、 号泣。来日した候補者の資 格取得のための期間は基本 的に3年。ことが最後の 年と、プレッシャーを感じ ていた。合格を知った病院 関係者も方寸が乱れた。泣いた

りしながら一緒に喜んだ。ブリランさんは、フィリピン総合病院の内科や外科で5年半ほど看護師として勤務し、2011年に来日。看護師としての知識や経験はあるが、言葉や漢字でも読み間違えるような文章があり、読解力が必要なという。

来日後半年は自らの日本語研修を受けたほか、新垣病院が日本語研修を招いた。EPA研修支援担当者高原大介さん(試験の過去問題を教えた)と取り組んできたという。

今後についてブリランさんは「ずっとここで働きたい。フィリピンに両親と妹2人に仕事をすると定めているから、必ず帰国して来たい」と話した。

塚田由美子看護部長は「患者に対してとても優しい。これからはサポートして大事に育てたい」と話した。同病院では、ブリランさんと一緒に来日したもう1人が来年の合格に向け勉強中。11月にはさらに2人がフィリピンから来沖する予定という。

看護師試験に合格したブリランさん(中央)と塚田由美子看護部長(左)、EPA研修支援担当の高原大介さん(右)は25日、沖縄市安慶田の新垣病院

※平成 26 年 3 月 26 日沖縄タイムスの記事